

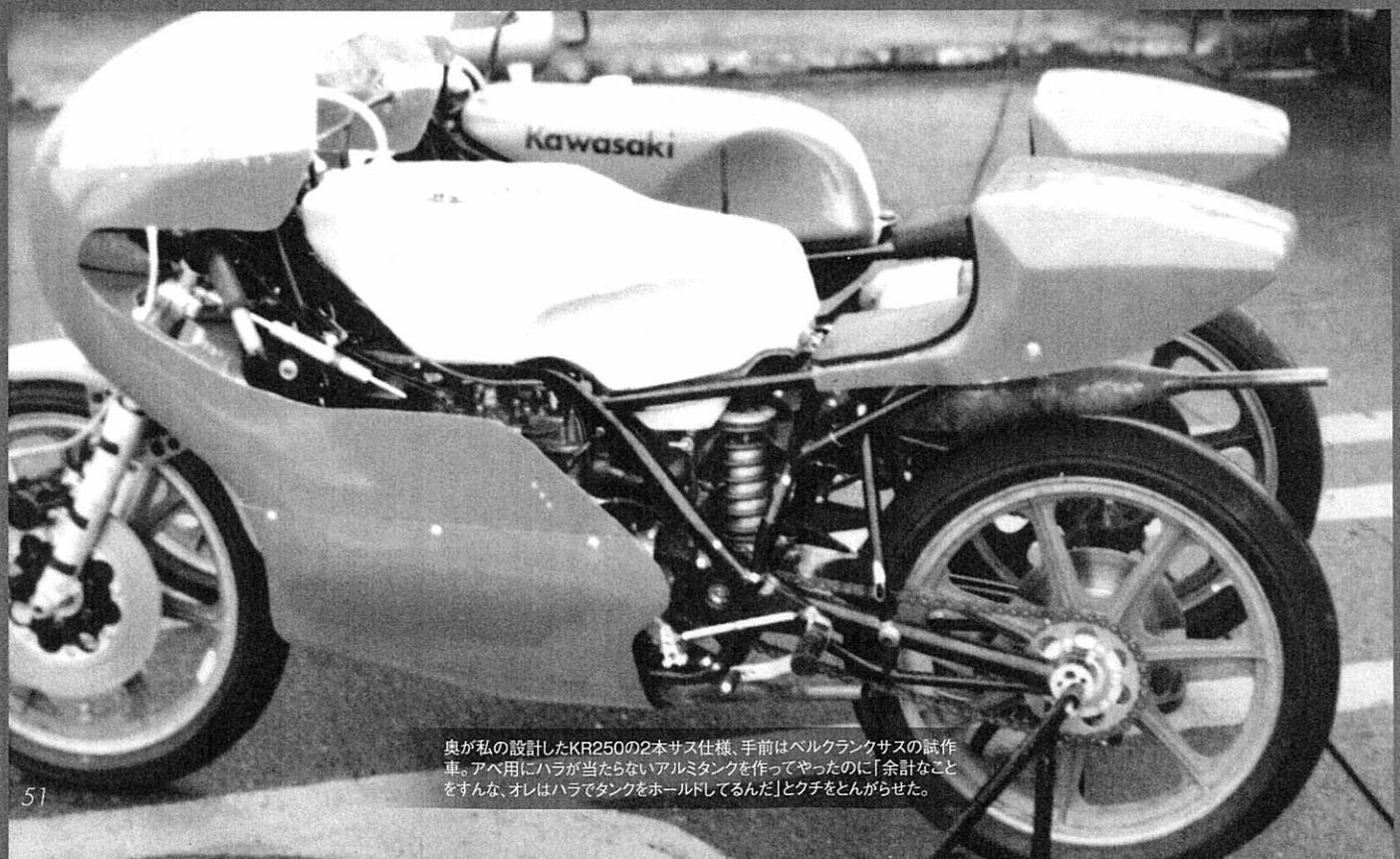


- アベチンと一緒に行った1975年のテスト。この日はカワサキとスズキの合同テストでKR750のセッティング。パリー・シャンが目の前でクラッシュ。リヤタイヤの表面がハガレたらしい。

KR Racer Outside Story カワサキレジェンズ外伝 2ストロークKRの変遷に携わった男 /平松絹男

ツーリングとモトクロスとエンジンいじりに明け暮れた学生が、レースバイクを作りたくてスズキに就職。そこで阿部孝夫と出逢ったおかげで、カワサキに移ってKR250とKR350に何度もチャンピオンを取らせることになる。それに取り付けた「ユニトラック」は、なんとブラバムのF1からのアイディアだった。

Photos:木引繁雄/平松絹男 Report:中尾省吾

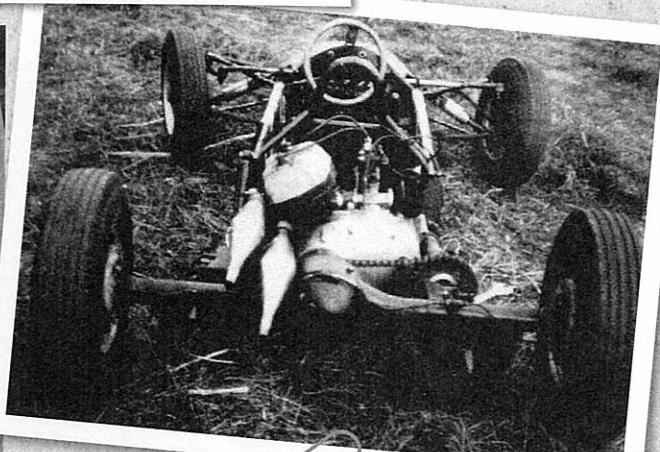


奥が私の設計したKR250の2本サス仕様、手前はペルクランクサスの試作車。アベ用にハラが当たらないアルミタンクを作ったのに「余計なことをすんな、オレはハラでタンクをホールドしてるんだ」とクチをとんがらせた。



初めてのアメリカは1973年のデイトナ。このスズキTR750のカウリングが私の設計で、一番左が私。タイムキーパーで行ったから1台のストップウォッチで4台分計ってやつたら、ヨンのチームのアメリカ人たちが感心してた。

国立群馬工業高等専門学校の機械工学科。授業中でも工場にいることが多かったんで、級友がよく呼びに来た。コレはコニーの水平対向の360。毎日エンジンをバラしたり組んだりしてた。



高専の自動車部で作ったフォーミュラカー。エンジンはヤマハの250ツインで、フレームは私が切って曲げて溶接した。校内で乗り回した。

2ストロークKRの変遷に携わった男

/平松絢男

1970年の3月に国立群馬高専を卒業しました。高専は5年制の学校で機械工学科でしたからいろんな工作機械がありましてね。教室よりも工場が好きで250のバイクのエンジンを使ってフォーミュラカーを作ったり、自分のバイクをモトクロス用に改造してました。

ヤマハとスズキの入社試験を受けたんですけども、ヤマハのテストの英語の問題が憲法みたいな内容でぜんぜん分かんなくてね。スズキの英語の問題は機械分野の内容だったんでスズキだけ受かりました。

ところがスズキに入ったら富山工場の生産技術課に配属されちゃって、製品の見積もり仕事でした。オレはレースバイクを作りに来たらだからレーサーを作らせてくださいと上司に相談したら、その上司がちゃんと動いてくれまして、浜松のレー

サーグループへ移りました。

初めて描いた図面はTR750のカウリングの図面。TPつてもエンジンは市販車のGT750の水冷3気筒でね。これのAMA仕様のレー

ス用カウリングだったんですけども、木型が上がってきたときにあんまりでかいもんで、「縮尺をまちがえたかな」とオドロきましたよ。

そうそう、ここには伊藤リイチさんどーー「なんでもやってみる、なんでもやらにやいかん」とゆー親分がいましたから、いろいろ勉強させてもらいましたよ。

ここにライダーとして阿部孝夫がいたんですけども、ライダーにもシングルを削らせてパンチでエンジン回せたりしてましたからねえ、だからアベはマシンのことが分かるう

利さんと鍛えられたおかげ。

イダに育つたと思ひます。2人と

も、リイチさんのおかげです。

私はフレームの設計をやらせてもらえるようになって、TR500のII型、空冷から水冷に変更した2気筒をエルマッキを参考にしたフレームに載せてね。このマシンでアベが日本グランプリで2分26秒を出してく

れで予選2番手。ホンダCB500改の隅谷守男さんの次だったから、かなりの自信になりました。

そのあと水冷スクエア4の500ccを搭載したRG500のフレームもやりましたよ。

そのころの2スト3気筒エンジンのレーシングキットの図面も描きました。シリンドラー、ピストン、クラシッククラッチ、トラクシミシヨン、一次ギヤ、チャババーのエンジンキットを有力チームのマシンに載せてね、自分でもあちこちのサーキットを走ついろいろな大会に参加しながら開発しました。

特にF1の360やF1の500のフォーミュラースは日本中のサーキットで大人気になって、見てるだけでもすごく面白かったです。

同じく、世界GPのバリーリーのRG500の成績が出なくてね、何が悪いのか直に見たくて「ヨーロッパに行かせて欲しいなあ」とモンモンとしてるときには、カワサキに移っていたアベが「カワサキに来てオレのフレームを作つてくれ」と誘つてくれました。

それで1974年の8月にスズキを退社して9月にカワサキに入社。

カワサキに行つたらKR750の車体の仕事を任命されました。年内に完成車を30台作れと言われたので